

JA全厚連情報



厚生連病院長セミナーを開催

人口減少と高齢化率が進む地域での医療を維持していく ために等のセミナーを開催

第35回厚生連病院長セミナー・全国厚生連病院長会第30回通常総会

本会は令和6年12月22日、第35回厚生連病院長セミナーを開催し、20厚生連から56名の病院長等が参加した。

当日は、「人口減少と高齢化率が進む地域での医療を維持していくために」(南谷佳弘・国立大学法人 秋田大学学長)、「DX導入による病院業務変革の光と影 ICT導入で現場はどう変わったか?」(村上円人・佐野厚生総合病院院長)の2講演が行なわれた。

南谷氏は講演で、「人口減少と高齢化率が進む地域で医療を維持していくには、まず現状分析(少子高齢化・人口減少、医師以外の医療従事者の減少、相対的医師不足の把握)が大切であり、従来への対応(医療需要が増加するとベッド数・医療従事者数を増やすこと)で行うことは、社会保障費の抑制に圧力がかかる。また、若手人口の減少により、働き手の不足に直面する」と話された。それに伴い必要な対策として、「病院機能分化・医療生産性向上(省人化)を行い、収益を上げつつコスト削減を行うこと、また、DX化を行うことで、非医療業務が減少し、医療業務に専念できる」と話された。また、「自院だけという考えではなく、どの病院も見捨てず、地域で協力していくことが大切である」という話が大変印象的であった。



南谷氏の講演



講演全体の様子

村上氏は、情報システム業務との関わりについてのアウトライン（①HR ジョイント共同開発、②インスリン共同パッケージの共同開発、③日本透析医学会 HP リニューアル、④電子カルテの Vendor 変更、紙情報の電子化、看護室断捨離、⑤ヘルスレコードの共同開発、⑥iPad・zoom 連携（オリジナル）、⑦看護師クルズスのオンデマンド（オリジナル）、⑧胸部 Xp・AI 診断の導入、⑨RRS システムの導入（全国に先駆けて）、⑩クリニカルフロー：究極の電子情報抽出・表記システム）を交えて、ICTを導入したことにより現場がどう変わったかについて、ご講演いただいた。



村上氏の講演

特にDX推進には、システム導入後の業務変革に対し現場の抵抗があったが、それに対し「ITスキルの高い職員を採用し、若くても役割を与え、IT室兼務とすることで、現場ではリーダーシップを発揮するようになる」ことや、「システム導入時に、その効果や導入後の業務変革を十分に説明し、遂行する」ことが重要であると、実体験を交えながら話された。

参加者からは、「へき地にて運営している身としては、今後の運営の参考にさせていただきます。」、「人口減少地域での地域医療推進法人の設立と将来構想について、地域大学が先頭に立って取り組んでいることに感心しました。それだけ秋田県は危機意識があるのだと感じました。」、「当院は電子カルテ更新の時期にあり、参考になりました。」、「DX技術の導入のためには、IT業者との連携やアプローチの方法に工夫が必要であること、また、どのように活用すればよいか、大変参考になりました。」等の感想が寄せられた。

セミナー終了後、全国厚生連病院長会（会長：渡辺仁・佐久総合病院統括院長）第30回通常総会が行われた。